

2 (2) その他、特筆すべき教育・研究・診療・社会貢献活動等への取組と成果、世界的位置付けなど。(※評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容)

特筆すべき教育活動

1. 教育関係競争的資金の獲得

平成19年度、大学院教育改革支援プログラム「理学の実践と応用を志す先端的科学者の養成」(事業実施責任者小藺英雄教授)が採択された。このプログラムは、平成17・18年度実施された魅力ある大学院教育プログラム(大学院GP)「国際的若手研究者養成プログラム(ヤングブレインズ21)」を継承するものである。

2. 国費枠留学生(特別コース)の採択

平成16年度から実施している、英語のみにより教育と研究が行える大学院留学生プログラム「先端理学国際コース(IGPAS)」における国費留学生枠(特別コース)に申請し、8名の枠が認められた。平成20年度留学生から適用される。

3. ダブルディグリープログラムと共同教育プログラムの積極的推進

フランス応用科学院リヨン校並びにエコール・セントラル・リヨンとのダブルディグリープログラム、および中国清華大学との共同教育プログラムで留学生を受け入れた。

特筆すべき研究活動

1. 論文引用件数

平成20年9月1日現在、Thomson ISI社調べでは、物理学分野と化学分野で、それぞれ、我が国で2位と4位、世界で9位と16位となっている。東北大学の上位100位までの引用回数の論文のうち、50件程度(1位から3位を独占)は本部局所属教員が著者となっており、多大な貢献をしている。

2. 著名雑誌への掲載

法人化後から平成19年度まで、自然科学分野で著名な雑誌Scienceに8編、Nature関連雑誌に14編の掲載がある。その他、分野別に著名な雑誌に掲載されており、平成19年度の論文総数は1119件である。

3. 受章・受賞

平成19年度の教員の受章・受賞総数は28件であり、その内訳は、紫綬褒章1件、文部科学大臣表彰(若手科学者賞)1件、仁科記念賞1件など、権威あるものである。

4. COEプログラム等

本部局に所属する全専攻が、三つの21世紀COEあるいはグローバルCOEによって支援されており、研究水準の高さを示している。

5. 研究費獲得状況

教員一人当たり換算して約1千万円の外部資金を獲得している。平成19年度の科学研究費補助金の採択数は207件であり、採択率は79.3%と高水準にある。

特筆すべき社会貢献活動等

1. アウトリーチ活動を通じた社会貢献

化学専攻では、「教師のための化学教育講座」、「全国高校化学グランプリ」、「ジュニア化学への招待」など、社会人や小・中・高校生を対象に、アウトリーチ活動を行っている。数学専攻では東北6県の高校生を対象とする「仙台数学セミナー」を実施している。このような試みは他専攻でも積極的に展開している。さらに、本部局はサイエンス・エンジェルの活動にも、最大限の支援をしている。また本部局の広報室は、サイエンスカフェの運営に関しても積極的支援を行っている。

2. 防災・環境保全に関する政策提言

地球物理学専攻では、文部科学省地震調査研究推進本部の「新総合基本政策事業」の策定において中心的役割を果たしてきた。地学専攻では、知的基盤創成・利用促進研究開発事業として「新環境基準に対応した水質汚濁リスク評価基本図」を作成するなど、国・自治体等の30以上の専門委員会において提言を行ってきた。

3. 気候変動に関する政府間パネル（IPCC）評価報告書への貢献

2007年度ノーベル平和賞を受賞した表記 IPCC へ、本部局所属教員1名が主要執筆者として参加した。同教員は、平成19年度中に、IPCCの活動や報告書の内容を伝える一般市民向けの10数回の講演を通して、地球温暖化問題の啓蒙を積極的に行った。